

令和2年度 ふれ愛の館しおん 事業報告

1. 事業の総括

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きく、事業実施が大きく後退した。職員雇用・育成・研修・コミュニケーションの体系が大きく変わり、外部環境の変化に対応することなく、感染対策のみに注視した経営となった。しかし、新型コロナウイルス感染の発生時、高齢サービス事業間の連携、サポート体制の強化、社会福祉法人ライフサポート協会からの応援スタッフ派遣や各施設からの応援物資提供など、日頃からの法人間連携などが実施の動きとして現場で運用できたことは、大きな成果である。今回の実践例をBCP（事業継続計画）に反映させながら、更なる体制強化を図る。令和3年度は介護保険制度改正対応、ポストコロナを見据えた運営を求められており、管理的ケアとなった今の状況を打破するために事業を推進していく。特に「ふれ愛の館しおん」の大きな特徴である「地域」「家族」「こども」との関り、外部資源に目を向けたサービス展開を図り、事業を推進していく。

2. 財務の視点(財務基盤の安定等)

財務状況の改善と安定

- ・稼働率・経費の管理の徹底（目標と最低基準の明確化）

デイサービス平均 19 人⇒平均 16 人 新型コロナの影響 生活相談員体制が整わず

第2 デイサービス平均 9.6 人⇒平均 8.6 人

居宅一人当たり平均（介護） 18.6 人⇒22.5 人 目標-7.5 人

特養 95.1%（前年度 94%） 目標稼働 96%

- ・人件費率の徹底管理、業務改善による雇用要件の整理と人員補充戦略の見直し

前年度 85.3%から 79%に減少している。特養の人件費は前年度 12%の減少がみられるものの、事務費は前年度 30%増（人材紹介料の増）事業費は前年度 30%増（コロナ対策費の増）。

業務改善は介護の担い手創出事業にて、アシスタントワーカーの配置を実施する

3. 顧客の視点（サービスの質の向上・新規サービス・環境整備・地域貢献等）

(1) 3号館のリジェネレーションプロジェクトの推進

(2) 全世代型・全世代型包括支援センターの実現

- ・介護予防拠点として、地域ヘルスケア事業の推進（デイ）はコロナの影響もあったが、感染予防を徹底し開催してきた。緊急事態宣言以外は実施できている
- ・小規模多機能事業への移行（第2デイ）は建物の構造上、3号館での実施は困難
- ・生活支援サービスのニーズ調査の実施とサービスメニューの立案（ヘルパー）は、具体的に調査は行っていないが、生活援助型の養成講座は住吉区社会福祉協議会、社会福祉法人ライフサポート協会と協働し、実施に向けて調整してきたが、新型コロナの影響もあり未実施。次年度実施する。

4. 内部統制の視点(働きやすい職場環境・労働環境等)

(1) 高齢部門の連携強化(コミュニケーションの活性化)

今までの会議形式を見直し、コミュニケーションが活性する会議への変更し、高齢部門で、縦割り解消に向けて、随時、問題発生時に会議を行っている。高齢部門での新人研修を実施するなどし、全体的な動きとして会議、面談を随時行う。

5. 学習と成長の視点(雇用・人材育成・キャリアアップ等)

- ① 個別キャリア形成の為の支援
- ② プリセプター制度の導入 人材育成のための土壌づくり
- ③ 評価者の育成
- ④ 職員採用体制の充実を図る
- ⑤ インターシップ制度の運用から実習受け入れの体制整備を推進

今期の研修については、新型コロナウイルス感染の影響もあり、オンライン開催の研修が多く、その対応の遅れが出た。コロナ禍での研修に対しての施設の方針や体制が不明確で、すべてが「コロナ禍の影響」で未実施になっている。施設内研修についても、緊急事態宣言やクラスターなど集合型研修が定期学習できない。

6. その他

新型コロナウイルス感染状況

特別養護老人ホーム 令和2年10月 職員1名発症

11月 入居者2名 職員3名発症

濃厚接触者 入居者25名

クラスター発生となり、12月末まで隔離対策

※ 社会福祉法人ライフサポート協会より3名の応援スタッフが派遣される 9日間

デイサービスセンター 12月 利用者1名発症 濃厚接触者4名 7日間の閉館

令和3年 2月 職員1名発症 2日間の閉館

ホームヘルプセンター 令和2年12月 職員1名 利用者1名 発症